

case
21

加圧浮上装置製造

株式会社
田中工業所

経営の見える化で危機を脱出！アツギ経営者と社員による 資金繰り表を基盤にしたデータ駆動経営の実践

これで解決！



Point.1 資金繰り表の作成から社内改革に着手！

Point.2 会計・給与のクラウド化・データ連携により経理DXを推進！

Point.3 ノーコードツールを活用し、原価と工程進捗を見える化！

課題
はココ！



1 資金の流れが不透明で、現金残高や将来的な資金不足リスクを予測できない状態であった。売掛金や買掛金の管理が手作業で行われ、タイムリーな資金計画を立てることが困難であり、経営判断が遅れることがあった。

2 会計処理や給与計算が手作業で行われており、非効率であるとともに、データの転記作業が発生し、ミスや確認作業が頻発。ルーチン業務に人的リソースが割かれ、戦略的な業務に取り組む余裕がなかった。

3 案件ごとの原価や工程進捗がすぐに把握できず、生産や収益の管理が難しい状況であった。また、情報が個別に管理されており、部門間での共有が進まず、全社的な意思決定が遅れる原因となっていた。



▲ 加圧浮上装置という排水処理装置を自社ブランドとして制作。

解決の
ポイント
はココ！



1 銀行口座の入出金データを基に資金繰り表を作成し、支出や入金スケジュールを見える化。既存の会計ソフトに口座自動連携ツールを導入し、データの一元管理を実現。経営者はタイムリーに資金の流れを把握できるようになり、迅速かつ正確な経営判断が可能となった。

2 給与システムを導入し、勤怠管理システムやネットバンキング、会計ソフトと自動連携。これにより、給与計算や仕訳作業を効率化し、バックオフィス業務の時間を大幅に削減。生み出されたリソースを経営改善や戦略的な業務に配分できるようになった。

3 ノーコードツールを活用し、案件ごとの原価や工程進捗を管理するアプリを開発。現場でデータ入力ができるようにすることで、タイムリーに状況を把握できる仕組みを構築した。これにより、迅速な意思決定と計画的な生産が可能になり、部門間の連携も強化された。



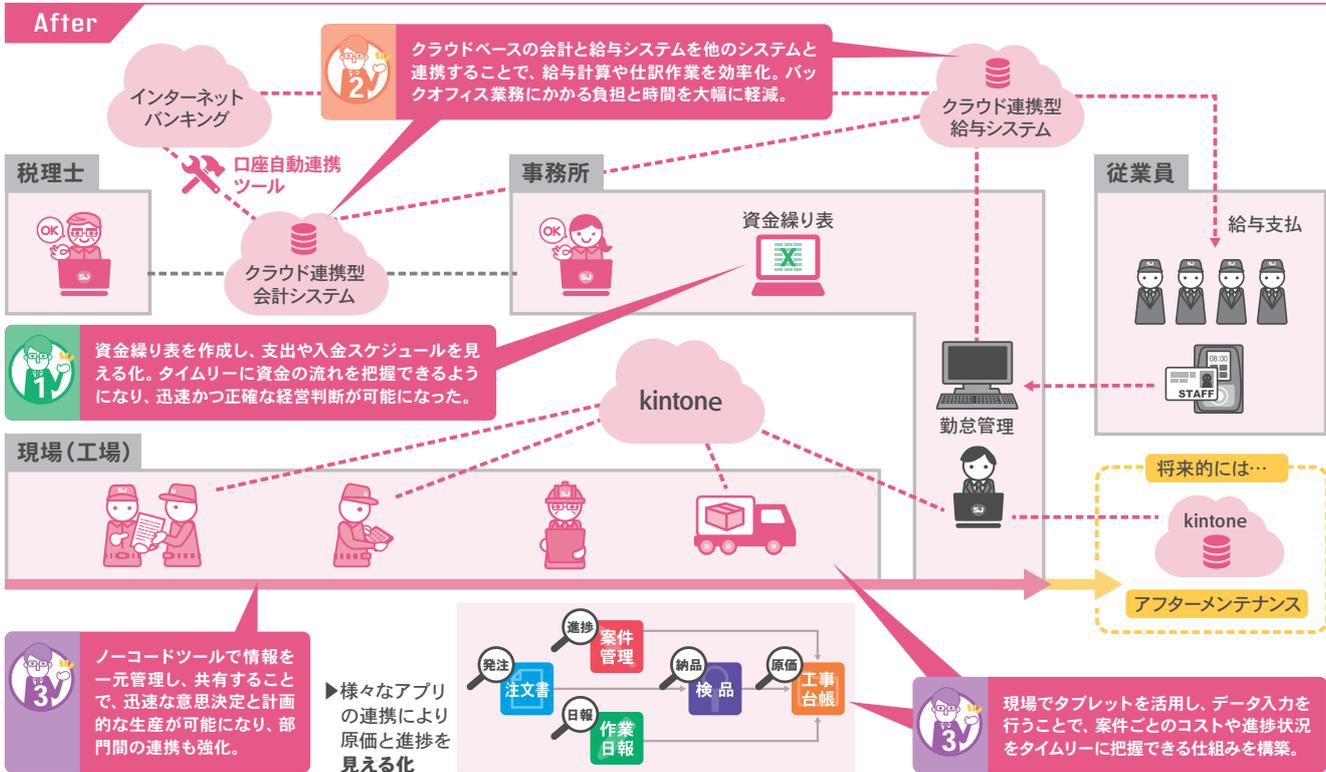
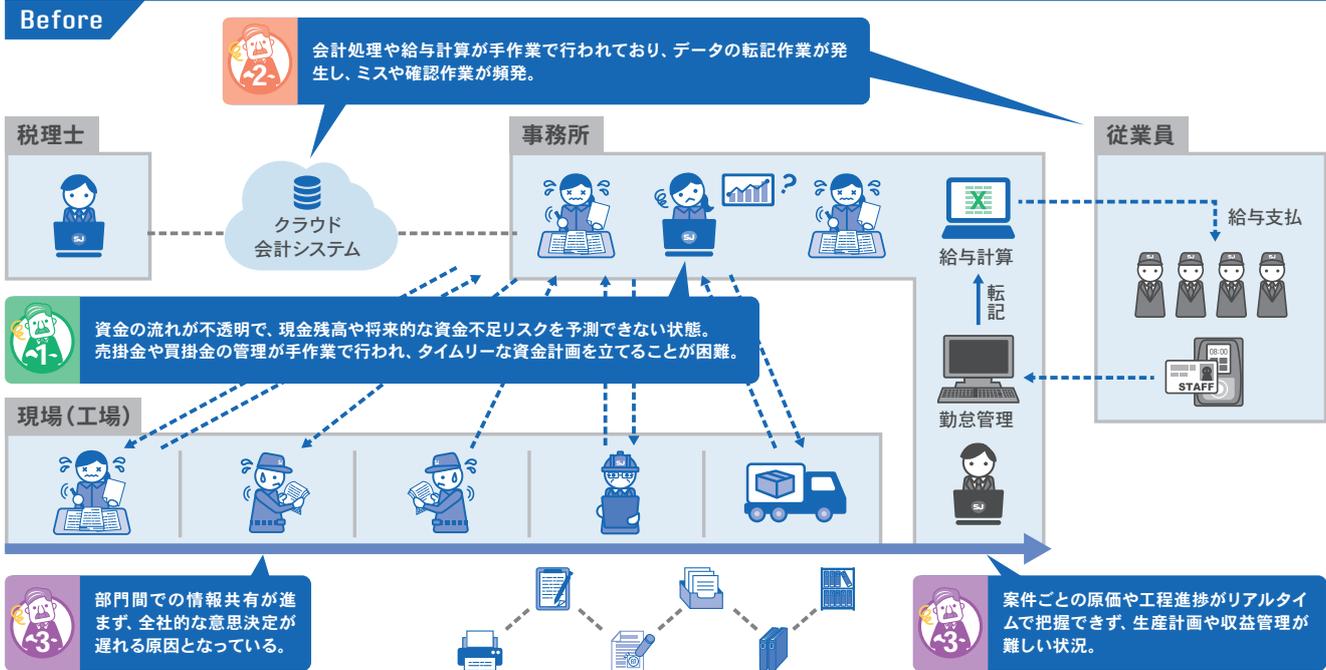
▲ 作業員が現場でタブレットを活用し、日報を入力。より早く、正確に原価と進捗を把握できるようになった。

▲ 見える化の起点となった注文書アプリ。良い評判から、次々と業務がアプリ化され、DXを推進する風土が醸成。

DX推進の成果

会計・給与のクラウド化とシステム連携により、ミスの削減とデータ精度の向上を実現するとともに、バックオフィス業務に関わる時間が削減（週40時間→9時間程度）され、業務効率が大幅に改善。

資金繰り表の作成と入出金データの一元管理により、リアルタイムで資金の流れを把握できるようになり、資金計画の精度が向上。さらに、金融機関からの信頼性も高まり、資金調達をスムーズに行える環境が整った。結果として経営的な危機を脱し、以降も安定的に売上が推移。



今後の展開

kintoneを中心にしたデータ管理を拡充し、在庫管理や予算作成への適応を目指す。また、収集したデータを活用した予測分析により、生産計画の最適化などに取り組む。さらに顧客データベースを構築し、アフターメンテナンスを強化することで、顧客満足度の向上とリピートオーダーの促進を図る。

株式会社 田中工業所

(本 社) 〒503-0918 岐阜県大垣市西崎町4丁目18番地
 TEL. 0584-74-5121 FAX. 0584-74-5124 創業/昭和24年 資本金/1,000万円 従業員数/14名

創業70年以上の歴史を持つ排水処理装置メーカー。凝集加圧浮上装置を中心に、国内外で1,000件以上の納入実績を誇り、クリーンな環境づくりに貢献。設計から製造、施工までを一貫して行い、シンプルで高メンテナンス性を持つ装置を提供。食品加工や石油化学工場など、多様な業界のニーズに応え、柔軟なユニット設計で最適なソリューションを提案。さらに、社員の個性と成長を大切にし、活気ある職場環境づくりに積極的に取り組む。

当事例の推進役

田中 佑子 氏
 (代表取締役)



兄の急逝をきっかけに家業を継ぐ決意を固め、経理の改善や資金繰り表の作成を通じて、会社の経営を立て直す。5代目のアトツギ経営者として、「ものづくりを通して社員と社会を幸福にする」という理念を掲げ、地域社会への貢献にも力を入れている。また、儲かる中小企業を増やすため、経営における数字の見える化を支援する個人事業も展開している。